

## 前期基本計画(案)に対する審議会意見と対応方針

項目	意見概要	対応方針
目標値	「目標値」であるが、全体的に数値が太子町の実情に合った数値となっているのか疑問に思う。担当課で、もう一度精査する必要がある。	「評価指標と目標値」について、再度精査を行いました
	P5-19とP5-21の目標指標「特定健康診査受診率(国民健康保険被保険者)」が重複している。	
	P5-28の目標指標「年間道の駅売上額」の目標値と、「道の駅年間レジ通過数」の目標値は、太子町観光協会へのヒアリングなどは行われていない。 令和6年度の実績及び現状を踏まえて、5年後の目標値を設定されたのか。 太子町の実情に応じての目標値を設定されるべきではないか。	
	「施策」の数と「評価指標と目標」の数があまりにも違いすぎる。貴町の評価指標は数が少ない。評価指標が少なすぎると、根拠性に欠けるため、客觀性が担保された評価・点検に繋がらない。	
	P5-16 各種セミナーやタウンミーティングの開催回数などは「評価指標・目標」として機能する。他に項目についても、「評価指標・目標」は検討の余地がある。	
施策	自治会離れについて、何か新しい取り組みを入れてはどうか。自治会に入ることで特典のようなもの。自治会に入ると役員が回ってくる、お金がたくさん要るなどのイメージが強い。自分も今の仕組みだと入らない。	現在も、自治会への入会を促す取り組みを実施しており、今後も引き続き実施します。具体的な取り組みについては、他市町村の事例も参考に、さらに検討します。
	太子町に近い駅と言えば、上ノ太子や喜志になるが、河内国分など違う地域の駅にもバスを走らせてはどうか、新たな人の流れができる。	現在のところ、太子町と河内国分をつなぐバス路線は考えておりません。
	企業誘致により、地域の活性化や働く場所ができるという話があるが、本当にそんな見込みがあるのか。ラムーやドラッグストアが出来たことで、太子町にどれほどの効果をもたらしているか。	具体的な効果を示すデータはありませんが、企業誘致等の際には、地域の活性化等を目標とする企業を評価するようにしています。
	「たいしづんスマイル」は、マンネリ化している。何か変化を考えないと、参加人数が減っていかないか心配である。	現在のところ、参加人数が減っていることはありません。マンネリ化しないように工夫を図りながら進めています。

	<p>P5-3 「地域資源を生かした子育て支援」の「地域資源」とは何を指しているか。「人が資源である」とすると違和感を感じる方がいるかもしれません。</p> <p>関連して、「歴史・文化資源」「自然・歴史資源」「まちの資源」「地域資源」「自然資源」「観光資源」など、「資源」に関する複数の用語が使用されている。使い分けに意味はあるか。</p>	<p>ここでいう「地域資源」とは、「こども家庭センターガイドライン」(こども家庭庁 令和6(2024)年3月)より、以下の意味として使っています。</p> <p>「社会福祉法人、NPO 法人、民間企業、ボランティア等で、妊産婦・こどもと子育て家庭への支援を担う団体・事業所、民生委員・児童委員、障害児支援を担う事業所等による多様な支援を指し、児童福祉法に定める事業のみならず、こども食堂などの子どもの居場所や、地域の見守りボランティア等があげられる。」</p> <p>なお、本計画では、以下の言葉に絞って使用するようにしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自然資源</li> <li>○歴史・文化資源</li> <li>○産業資源</li> <li>○観光資源(自然資源、歴史・文化資源 産業資源を含む)</li> <li>○人的資源</li> <li>○福祉資源</li> <li>○地域資源(人的資源や各種施設等を含む資源を広くとらえたもの)</li> </ul>
全体	<p>基本目標として、太子町の自然と歴史を発信しながら、未来を担うこども達が元気に育つまちづくり、誰もが住みやすく安心して暮らせるまちづくりを目指していく。</p>	<p>基本構想において、そのようなまちづくりを目指すことを謳っております。</p>
	<p>前期基本計画では、まずはこの5年間の目標を明確に決める。その中でも、未来を担う元気なこどもを育てていく。学校施設・教育の充実を図る。そして、国レベルでも少子高齢化に対してはどのをかける対応を考えいく。</p>	<p>前期基本計画は、ご指摘の点を踏まえた計画づくりを目指しています。</p>